

## 校異源氏物語・さわらひ

やふしわかねは春のひかりをみたまふにつけてもいかてかくならへにける月  
日ならむとゆめのやうにのみおほえ給ゆきかふ時くにしたかひはなとりのい  
ろをもねをもおなし心におきふしみつゝはかなきことをもゝとすゑをとりてい  
ひかはし心ほそき世のうさもつらさもうちかたらひあはせきこえしにこそなく  
さむかたもありしかおかしきことあはれるふしをもきゝしる人もなきまゝに  
よろつかきくらし心ひとつをくたきて宮のおはしまさすなりにしかなしきより  
もやゝうちまさりてこひしくわひしきにいかにせむとあけくるゝもしらすまど  
はれたまへと世にとまるへきほとはかきりあるわさなりければしなれぬもあさ  
ましあさりのもとよりとしあらたまりてはなに事かおはしますらむ御いのりは  
たゆみなくつかうまつり侍りいまはひとゝころの御ことをなむやすからすねむ  
しきこえさするなときこえてわらひつくくしおかしきこにいれてこれはわら  
はへのくやうして侍るはつをなりとてたてまつれりてはいとあしうてうたはわ  
さとかましくひきはなちてそかきたる

きみにとてあまたの春をつみしかはつねをわすれぬはつわらひなり御前に

よみ申さしめたまへとありたいしと思まはしてよみいたしつらむとおほせはう  
たの心はへもいとあはれにてなをさりにさしもおほさぬなめりとみゆることの  
はをめてたくこのましけにかきつくしたまへる人の御ふみよりはこよなくめと  
まりてなみたもこほるれば返事かゝせ給

このはるはたれにかみせむなき人のかたみにつめるみねのさわらひつかひ

にろくとらせさせ給いとさかりにゝほひおほくおはする人のさまくの御物お  
もひにすこしうちおもやせたまへるいとあてになまめかしきけしまさりてむ  
かし人にもおほえ給へりならひたまへりしおりはとりくにてさらにゝたまへ  
りともみえさりしをうちわすれてはふとそれかとおほゆるまでかよひたまへる  
を中納言殿のからをたにとゝめてみたてまつる物ならましかはとあさゆふにこ  
ひきこえ給めるにおなしくはみえたてまつり給御すくせならさりけむよとみた  
てまつる人くはくちおしかるかの御あたりの人のかよひくるたよりに御あり  
さまはたえすきゝかはしたまひけりつきせすおもひほれたまひてあたらしきと

しともいはいすいやめになむなりたまへるとき、給てもけにうちつけの心あさ、  
には物したまはさりけりといと、いまそあはれもふかくおもひしらるゝ宮はお  
はしますことのいとゝころせくありかたければ京にわたしきこえむとおほした  
ちにたりないえんなど物さはかしきころすくして中納言の君心にあまることを  
もまたゝれにかはかたらはむとおほしわひて兵部卿の宮の御かたにまいりたま  
へりしめやかなるゆふくれなれは宮うちなめたまひてはしちかくそおはしま  
しけるさうの御ことかきならしつゝ、れいの御心よせなるむめのかをめておはす  
るしつえをゝしおりてまいり給へるにほひのいといえんにめてたきをおりおかし  
うおほして

おる人の心にかよふはなゝれやいろにはいてすしたにゝほへるとのたまへ  
は

みる人にかことよせける花のえを心してこそおるへかりけれわつらはしく  
とたはふれかはしたまへるいとよき御あはひなりこまやかなる御物かたりとも  
になりてはかの山さとの御ことをそまつはいかにと宮はきこえ給中納言もすぎ  
にしかたのあかすかなしきことそのかみよりけふまでおもひのたえぬよしおり  
くにつけてあはれにもおかしくもなきみわらひみとかいふらむやうにきこえ  
いて給にましてさはかりいろめかしくなみたもろなる御くせは人の御うへにて  
さへそもしほるはかりになりてかゝくしくそあひしらひきこえ給めるそら  
のけしきも又けにそあはれしりかほにかすみわたれるよるになりてはけしうふ  
きいつるかせのけしきまたふゆめきていとさむけにおほとなふらもきえつゝや  
みはあやなきたとくしきなれとかたみにきゝさしたまふへくもあらずつきせ  
ぬ御物かたりをえはるけやりたまはて夜もいたうふけぬ世にためしありかたか  
りける中のむつひをいてさりともしのさのみはあらさりけむとのこりありけに  
とひなしたまふそわりなき御心ならひなめるかしさりなからも物に心えたまひ  
てなけかしき心のうちもあきらむはかりかつはなくさめまたあはれをもさまし  
さまくにかたらひたまふ御さまのおかしきにすかされたてまつりてけに心に  
あまるまでおもひむすほゝるゝことゝもすこしつゝかたりきこえ給そこよなく  
むねのひまあく心ちしたまふ宮もかの人ちかくわたしきこえてむとするほどの  
ことゝもかたらひきこえ給をいとうれしきことにも侍かなあいなく身つからの  
あやまちとなむおもふたまへらるゝあかぬむかしのなこりをまたたつぬへきか  
たも侍らねはおほかたにはなにことにつけても心よせきこゆへき人となむおも  
ふたまふるをもしひなくやおほしめさるへきとてかのこと人となおもひわきそ

とゆつり給し心をきてをもすこしはかたりきこえ給へといはせのりのよふこ  
とりめいたりしよのことはのこしたりけり心のうちにはかくなくさめかたきか  
たみにもけにさてこそかやうにもあつかひきこゆへかりけれとくやしきことや  
うゝまさりゆけといまはかひなき物ゆへつねにかうのみおもはゝあるましき  
心もこそいてくれたかためにもあちきなくおこかましからむと思はなるさても  
おはしさんにつけてもまことにおもひうしろみきこえんかたはまたゝれかは  
とおほせは御わたりのことゝもゝ心まうけさせ給かしこにもよきわか人わら  
はなともとめて人ゝは心ゆきかほにいそきおもひたれといまはとてこのふし  
みをあらしはてむもいみしく心ほそければなけれ給ことつきせぬをさりとて  
も又せめて心こはくたえこもりてもたけかるましくあさからぬ中のちきりもた  
えはてぬへき御すまるをいかにおほしえたるそとのみうらみきこえ給もすこし  
はことほりなれはいかゝすへからむとおもひみたれたまへりきさらきのついた  
ちころとあればほとちかくなるまゝにはなの木もののけしきはむものこりゆか  
しくみねのかすみのたつをみすてむこともおのかとこよにてたにあらぬたひね  
にていかにはしたなく人わらはれなることもこそなとよろつにつゝましく心ひ  
とつにおもひあかしくらしたまふ御ふくもかきりあることなれはぬきすてたま  
ふにみそきもあさき心ちそするおやひとゝころはみたてまつらさりしかはこひ  
しきことはおもほえすその御かはりにもこのたひの衣をふかくそめむと心には  
おほしのたまへとさすかにさるへきゆへもなきわさなれはあかすかなしきこと  
かきりなし中納言とのより御くるま御前の人ゝはかせなとたてまつれたまへ  
り

はかなしやかすみのあるところもたちしまに花のひもとくおりもきにけりけにい  
ろゝいときよらにてたてまつれたまへり御わたりのほとのかつけものともな  
とことゝしからぬ物からしなくゝにこまやかにおほしやりつゝいとおほかり  
おりにつけてはわすれぬさまなる御心よせのありかたくはらかなともえいと  
かうまてはおはせぬわさそなと人ゝはきこえしらすあさやかならぬふる人と  
もの心にはかゝるかたを心にしめてきこゆわかき人は時ゝもみたてまつりな  
らひていまはとことさまになりたまはむをさうゝしくいかにこひしくおほえ  
させたまはるときこえあへり身つからはわたり給はむことあすとのまたつと  
めておはしたりれいのまらうとゐのかたにおはするにつけてもいまはやうゝ  
物なれてわれこそ人よりさきにかうやうにもおもひそめしかなどありしさまの  
たまひし心はへを思いてつゝさすかにかけはなれことのほかになとははしたな

めたまはさりしをわか心もてあやしうもへたゝりにしかたとむねいたくおもひつゝけられ給かいはみせしさうしのあなも思いてらるればよりてみたまへところの中をはおろしこめたれはいとかひなしうちにも人ゝおもひいてきこえつゝうちひそみあへり中の宮はましてもよをさるゝ御なみたのかはにあすのわたりもおほえ給はすほれゝしけにてなかつたまへるにつきころのつもりもそこはかとなけれといふせく思たまへらるゝをかたはしもあきらめきこえさせてなくさめ侍らはやれいのはしたくなさはなたせたまひそいとゝあらぬ世の心ちし侍りときこえ給へれはゝしたなしとおもはれたてまつらむとしもおもはねといさや心ちもれいのやうにもおほえすかきみたりつゝいとゝはかゝしからぬひかこともやとつゝましうてなとくるしけにおほいたれといとおしなとこれかれきこえて中のさうしのくちにてたいめんしたまへりいと心はつかしけになまめきてまたこのたひはねひまさりたまひにけりとめもおとろくまてにほひおほく人にもにぬようゐなとあなめてたの人やとのみゝえたまへるをひめ宮はおもかけさらぬ人の御ことをさへおもひいてきこえ給にいとあはれとみたてまつり給つきせぬ御ものかたりなともけふはこといみすへくやなといひさしつゝわたらせ給へきところかくこのころすくしてうつろひ侍へければよ中あか月とつきゝしき人のいひ侍めるなにことをりにもうとからすおほしのたまはせは世に侍らむかきりはきこえさせうけ給はりてすくさまほしくなん侍るをいかゝはおほしめすらむ人の心さまゝに侍る世なれはあいなくやなとひとかたにもえこそおもひ侍らねときこえ給へはやとをはかれしと思心ふかくはへるをちかくなとのたまはするにつけてもよろつにみたれ侍りてきこえさせやるへきかたもなくなど所ゝいひけちていみしく物あはれとおもひたまへるけはひなといとようおほえたまへるを心からよその物にみなしつるといとくやくしくおもひゐるたまへれとかひなければそのよのことかけてもいはすわすれにけるにやとみゆるまでけさやかにもてなしたまへり御まへちかきこうはいのいろもかもなつかしきにうくひすたにみすくしかたけにうちなきてわたるめれはましてはるやむかしのと心をまはしたまふとちの御ものかたりにおりあはれなりかしかせのさとふきいるゝにはなのかもまらうとの御にほひもたち花ならねとむかしおもひいてらるゝつまなりつれゝのまきはしにも世のうきなくさめに心にとゝめてもてあそびたまひし物をなと心にあまりたまへは

みる人もあらしにまよふ山さとにむかしおほゆる花のかそするいふとてな

くほのかにてたえゝきこえたるをなつかしけにうちすんしなして

そてふれしむめはかはらぬにほひにてねこめうつろふやとやことなるたえ

ぬなみたをさまよくのこひかくしてことおほくもあらすまたも猶かやうにてなむなにもきこえさせよかるへきなきこえをきてたち給ぬ御わたりにあるへきことゝも人／＼にのたまひをくこのやとりにかのひけかちのとのぬ人なとはさふらふへければこのわたりのちかき御さうともなとにそのことゝもゝのたまひあつけなとまめやかなることゝもをさへさためをき給弁そかやうの御ともにもおもひかけすなきいのちいとつらくおほえ侍るを人もゆゝしくみおもふへければいまは世にある物ともひとにしられ侍らしとてかたちもかへてけるをしめてめしいてゝいとあはれとみたまふれいのむかし物かたりなとせさせ給てゝゝには猶とき／＼はまいりくへきをいとたつきなく心ほそかるへきにかくて物したまはんはいとあはれにうれしかるへきことになむなとえもいひやらすなき給いとふにはえてのひ侍るいのちのつらくまたいかにせよとてうちすてさせ給けんとうらめしくなへての世をおもひたまへしつむにつみもいかにふかく侍らむと思けることゝもをうれへかけきこゆるもかたくなしけなれといとよくいひなくさめ給いたくねひにたれとむかしきよけなりけるなこりをそきすてたれはひたひのほどさまはれるにすこしわくなりてさるかたにみやひかなりおもひわひてはなとかゝるさまにもなしたてまつらさりけむそれにのふるやうもやあらましきてもいかに心ふかくかたらひきこえてあらましなとひとかたならすおほえ給にこの人さへうらやましかればかくろへたる木丁をすこしひきやりてこまかにそかたらひ給けにむけにおもひほけたるさまなから物うちいひたるけしきようゐくちおしからすゆへありける人のなこりとみえたり

さきにたつなみたのかはにみをなけは人にをくれぬいのちならましとうち

ひそみきこゆそれもとつみふかゝなることにこそかのきしにいたることなどかさしもあるましきことにてさへふかきそこにしつみすくさむもあいなしすへてなへてむなしくおもひとるへき世になむなどの給

身をなけむなみたのかはにしつみてもこひしきせゝにわすれしもせしいか

ならむ世にすこしもおもひなくさむることありなむとはてもなき心ちし給かへらむかたもなくなめられて日もくれにけれどすゝろにたひねせむも人のとかむることやとあひなければ返たまひぬおもほしのたまへるさまをかたりて弁はいとゝなくさめかたくゝれまとひたりみな人は心ゆきたるけしきにて物ぬひいとなみつゝおひゆかめるかたちもしらすつくろひさまよふにいよ／＼やつして人はみないそきたつめるそてのうらにひとりもしほをたるゝあま哉とうれ

へきこゆれは

しほたるゝあまの衣にことなれやうきたるなみにぬるゝわかそて世にすみ  
つかむこともいとありかたかるへきわざとおほゆれはさまにしたかひてこゝを  
はあれはてしとなむおもふをさらはたいめんもありぬへけれとしはしのほとも  
心ほそくてたちとまりたまふをみくにいとゝ心もゆかすなむかゝるかたちな  
る人もかならずひたふるにしもたえこもらぬわさなめるを猶世のつねにおもひ  
なして時／＼もみえ給へなといとなつかしくかたらひ給むかしの人のもてつか  
ひたまひしさるへき御でうとゝもなとはみなこの人にとゝめをき給てかく人よ  
りふかくおもひしつみたまへるをみればさきの世もとりわきたるちきりもや物  
したまひけむとおもふさへむつましくあはれになむとのたまふにいよ／＼わら  
はへのこひてなくやうに心おさめんかたなくおほゝれるたりみなかきはらひよ  
ろつとりしたゝめて御くるまともよせて御せんの人／＼四ゐ五ゐいとおほかり  
御身つかからもいみしうおはしまさまほしけれとこと／＼しくなりて中／＼あし  
かるへければたゝしのひたるさまにもてなして心もとなくおほさる中納言殿よ  
りも御せんの人かすおほくたてまつれたまへりおほかたのことをこそ宮よりは  
おほしをきつめれこまやかなるうち／＼の御あつかひはたゝこの殿よりおもひ  
よらぬことなくとふらひきこえ給曰くれぬへしとうちにもとにもゝよほしきこ  
ゆるに心あはたゝしくいつちならむとおもふにもいとはかなくかなしとのみお  
もほえたまふに御くるまにのるたいふの君といふ人のいふ

ありふれはうれしきせにもあひけるを身をうちかはになけてましかはうち  
ゑみたるを弁のあまの心はへにこよなうもあるかなと心つきなうもみたまふい  
まひとり

すきにしかこひしきこともわすれねとけふはたまつもゆく心かないつれも  
としへたる人／＼にてみなかの御かたをは心よせましきこえためりしをいまは  
かくおもひあらためてこといみするも心うの世やとおほえたまへは物もいはれ  
たまはすみちのほとのはるけくはけしき山みちのありさまをみたまふにそつら  
きにのみおもひなされし人の御中のかよひをことはりのたえまなりけりとすこ  
しおほししられける七日の月のさやかにさしいてたるかけおかしくかすみたる  
をみたまひつゝいとゝほきにならはすくるしければうちなかめられて

なかむれは山よりいてゝゆく月も世にすみわひてやまにこそいれさまかは  
りてつゐにいかならむとのみあやうくゆくすゑうしろめたきにとしころなにと  
とをかおもひけんとそとりかへさまほしきやよひうちすきてそおはしつきたる

みもしらぬさまにめもかゝやくやうなる殿つくりのみつはよつはなる中にひき  
いれてみやいつしかとまちおはしましければ御くるまのもとに身つからよらせ  
給ておろしたてまつり給御しつらひなとあるへきかきりして女はうのつほね

くゝまで御心とゝめさせ給けるほとしるくみえていとあらまほしけなりいかは  
かりのことにかとみえたまへる御ありさまのにはかにかくさたまりたまへはお  
ほろけならすおほさるゝことなめりと世人も心にくゝおもひおとろきけり中納  
言は三条の宮にこの廿よ日のほとにわたりたまはんとてこのころはひゝにおは  
しつゝみたまふにこの院ちかきほとなれはけはひもきかむとてよふくるまてお  
はしけるにたてまつれたまへる御せんの人くゝかへりまいりてありさまなどか  
たりきこゆいみしう御心にいりてもてなしたまふなるをきゝ給にもかつはうれ  
しき物からさすかにわか心なからおこかましくむねうちつふれてものにもか  
なやとかへすくゝひとりこたれて

しなてるやにほのみつうみにこく舟のまほならねともあひみし物をとそい

ひくたさまほしき右のおほとのは六のきみを宮にたてまつり給はんことこの月  
にとおほしさをためたりけるにかくおもひのほかの人をこのほとよりさきにとお  
ほしかほにかしつきすゑたまひてはなれおはすれはいと物しけにおほしたりと  
きゝ給もいとおしければ御ふみは時くゝたてまつり給御もきのこと世にひゝき  
ていそき給へるをのへたまはんも人わらへなるへければはつかあまりにきせた  
てまつり給おなしゆかりにめつらしけなくともこの中納言をよそ人にゆつらむ  
かくちおしきにさもやなしてましとしころ人しれぬものにおもひけむ人をもな  
くなしても心ほそくなかめるたまふなるをなとおほしよりてさるへき人して  
けしきとらせ給けれと世のはかなさをめにちかくみしにいと心うく身もゆゝし  
うおほゆれはいかにもくゝさやうのありさまは物うくなんとすさましけなるよ  
しきゝ給ていかてかこのきみさへおほなくゝこといつることを物うくはもてな  
すへきそとうらみたまひけれとしたしき御中らひなからも人さまのいと心はつ  
かしけに物し給へはえしゐてしもきこえうこしたまはさりけりはなさかりの  
ほと二条の院のさくらをみやり給にぬしなきやとのまつ思やられたまへは心や  
すくやなとひとりこちあまりて宮の御もとにまいりたまへりこゝかちにおはし  
ましつきていとうすみなれたまひにたれはめやすのわさやとみたてまつるも  
のかられいのいかにそやおほゆる心のそひたるそあやしきやされとしちの御心  
はへはいとあはれにうしろやすくそ思きこえ給けるなにくれと御物かたりきこ  
えかはしたまひてゆふつかた宮は内へまいり給はんとて御くるまのさうそくし

て人々おほくまいりあつまりなどすれはたちいて給てたいの御かたへまいり  
たまへり山さとのけはひきかへてみすのうち心にくすみなしておかしけな  
るわらはのすきかけほのみゆるして御せうそこきこえ給へれば御しとねさしい  
て、むかしの心しれる人なるへしいてきて御返きこゆあさゆふのへたてもある  
ましうおもふたまへらるゝほとなからそのことゝなくてきこえせんも中々  
なれくしきとかめやとつゝみ侍るほとに世中かはりにたる心ちのみそし侍る  
や御まへのこすゑもかすみへたてゝみえ侍るにあはれなることおほくも侍るか  
なときこえてうちなかめて物し給けしきくるしけなるをけにおはせましかは  
おほつかなからすゆき返かたみに花のいろとりのこゑをもをりにつけつゝすこ  
し心ゆきてすくしつへかりける世をなとおほしいつるにつけてはひたふるにた  
えこもりたまへりしすまゐの心ほそさよりもあかすかなしうくちおしきことそ  
いとゝまさりける人々も世のつねにうとくしくなもてなしきこえさせ給そ  
かきりなき御心のほとをはいましもこそみたてまつりしらせたまふさまをもみ  
えたてまつらせたまふへけれなきこゆれとひとつてならすふとさしいてきこ  
えむことのなをつゝましきをやすらひたまふほとに宮いてたまはんとて御まか  
り申しにわたりたまへりいときよらにひきつくろひけさうしたまひてみるかひ  
ある御さまなり中納言はこなたになりけりとみたまひてなとかむけにさしはな  
ちてはいたしすゑたまへる御あたりにはあまりあやしと思まてうしろやすかり  
し心よせをわかためはおこかましきこともやとおほゆれとさすかにむけにへた  
ておほからむはつみもこそうれちかやかにてむかし物かたりもうちかたらひた  
まへかしなときこえ給ものからさはありともあまり心ゆるひせんもまたいかに  
そやうたかはしきしたの心にそあるやとうちかへしのたまへはひとかたならす  
わつらはしけれとわか御心にもあはれふかくおもひしられにし人の御心をいま  
しもをろかなるへきならねはかの人もおもひのたまふめるやうにいにしへの御  
かはりとなすらへきこえてかうおもひしりけりとみえたてまつるふしもあらは  
やとおほせとさすかにとかくやとかたくにやすからすきこえなしたまへは  
くるしうおほされけり